

特別寄稿

なぜ大学生に薬物の話が必要か

相愛大学 人間発達学部 発達栄養学科
保健管理センター長

藤本 繁夫

2012年の秋、京都市立美術館でエルミター
ジュ展が開催されました。展示された絵画の中
で、ピエール・N・ゲラン作の「モルフィスと
イシス」の作品がありました。(図1)

モルフィスは夢の神、彼は薄暗い洞窟の黒檀
のベッドに、ケシの花に囲まれて眠り、特別な
力により、夢の中で人間の姿をまねることがで
きるという神様です。この絵は、虹の神である
イシスがゼウスの奥さんに頼まれて、虹に乗っ
てモルフィスを起こしにきた場面が描かれてい
ます。このケシの臭いで眠っているモルフィス
は「夢の神モルペウス」といわれていることか
ら、ケシからとれる薬物をモルヒネと名づけら
れました。このように麻薬はギリシャ神話の時
代からあったようです。

1. はじめに

芸能人や歌手、スポーツ選手が麻薬を使用し
たり所持していたことがマスコミでよく報道さ
れています。最近では危険ドラッグを吸入して
交通事故を引き起こした事件を新聞でよく見ま
す。危険ドラッグを吸入した後の記憶がなくな
って、何が起こったのか分からなくなって事故
を起こしたようです。このような事件は、一般
の学生には関係のない遠い世界のように思っ

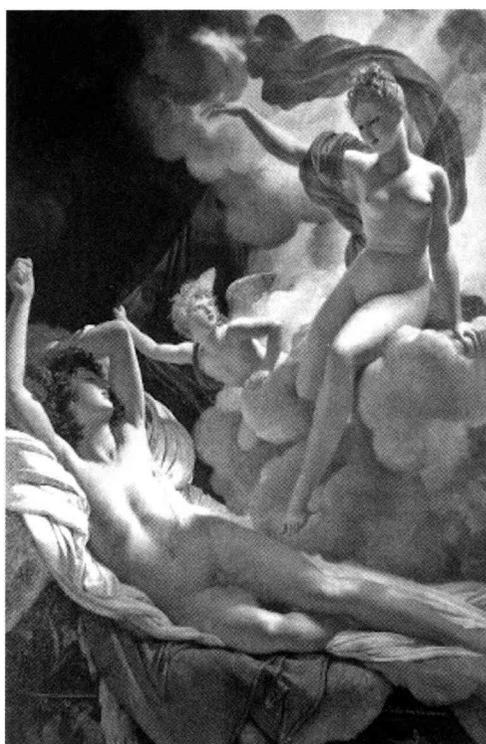


図1 モルフィスとイシス
(ピエール・ナルシス・ゲラン作、1811年)

ていますが、実は我々の生活のごく近くで生じて
いることです。大阪南の飲み屋で隣にいた人か
ら「ハイになる薬があるよ」とか、「痩せられ
る薬を試してみる」などといった誘惑がありま
す。アメリカやオーストラリアに留学すると、
学生達のパーティーやコンパでマリファナを吸

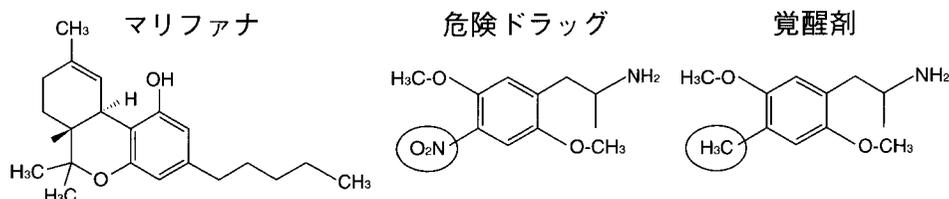


図2 マリファナ（テトラ・ヒドロカンナビノイド）、危険ドラッグと覚せい剤の構造式。危険ドラッグは覚せい剤と類似した構造式を示している。

っており、「あなたも吸ってみる」などと気軽に誘われることもあります。（図2）

このように麻薬は私たちのごく身近にあるものなのです。好奇心に誘われて一度吸ってしまうと中枢神経の不可逆的な障害が始まります。

2. 今、なぜ大学生に薬物の話が必要か？

2008年頃から大学生が大麻を持っていたことで逮捕された事件が次々と報道されました。2009年からは関西の大学生でも大麻所持で逮捕されました。そのような背景のもと、2010年に関西大学、関西学院、同志社大学と立命大学の“関関同立”に入学した学生20,080人を対象に薬物に関するアンケートが実施されました。その結果、「マリファナの入手が可能である」と答えた学生が6割を超え、「実際に使用していたのを見た」学生も941人にのぼり、学生の間で薬物汚染が広がっていることが浮き彫りになりました。そのため、各大学でも薬物に関する薬物乱用防止の教育が行われるようになりました。

2014年に再度、“関関同立”に入学した新生約22,000人を対象に、同様の薬物に関するアンケートが実施されました。このうち、「危険ドラッグを知っている」と答えた学生は約11,000人（全体の51.4%）でした。この割合は一回目の調査では約20%でしたが、約2.5倍

に増加しています。また、危険ドラッグを使うことについて「他人に迷惑をかけなければ個人の自由」と答えた学生は1456人（6.6%）いました。一方、大麻の使用については、「個人の自由だ」との回答が1312人（5.9%）、「使用の場面を見たことがある」学生は945人（4.2%）、使用を誘われた場合の対応として「相手によっては断り切れないかもしれない」は639人（2.9%）でした。この新入生を対象にしたアンケートの内容は中・高校生の時代のことです。この結果を取りまとめた関西四大学の薬物乱用防止連絡会では、大学の入学時に再度、薬物乱用防止のさらなる啓発活動を検討する必要があると各大学に注意を呼びかけました。

このようなことを背景に相愛大学では、新入生を対象にした薬物防止に関する講演会を2015年7月30日に開催いたしました。約80名の学生が参加の元に話を進めました。今回はその内容の一部を紹介いたします。

3. マリファナ（大麻）を吸うとどうなるか

マリファナは大麻というクワ科の一年草で、葉は、3-9枚の小葉が集まった手のひらのような形をしています。成長が早く、草丈が3mにもなりますが、種子をつけた後は枯れてしまいます。草全体に独特の青くさみがあります。茎は、太く緑色で、浅いスジが通っており、ま

っすぐに立っています。

マリファナを吸うと、大麻の煙に含まれる「カンナビノール」は、血液内で「テトラヒドロカンナビノイド (THC)」に変化し、脳内にあるカンナビノイド受容体に取り込まれます。すると、数分以内に多幸感になり、約30分でピークに達し、大麻が脳にたまり、急性の様々な精神症状がでてきます。(図2)

【急性の神経症状として】

1: 周りの色彩がより鮮やかに見え、時間がゆっくり流れるように感じる。現実感が薄れ、魂が体から離れるような離人体験する。体がほぐれるように感じるが、リラックスしているのではなく、ただやる気がなくなり、物事がどうでも良くなる。

2: 記憶障害、集中力が低下し、緊張の緩和、高揚感、多弁になる。

3: 不安、パニック、うつ、そう状態、突飛な行動、攻撃的な行動、妄想、幻覚が見える。

などの症状が現れます。

大麻の吸入を繰り返すと、慢性の精神症状がみられるようになります。

【慢性の症状として】

1: もうろう状態で、終日ぼーと過ごす。

2: 自発活動や思考ができなくなり、自己陶酔、病的虚言になり、抑うつ状態に陥る。

3: 感情の起伏や、喜怒哀楽の振幅が大きくなる。

4: 小学生程度の読み書き、計算しかできなくなる。

5: 幻覚や被害妄想、追跡されるなどの迫害妄想がでてくる。

などの神経症状がでてきます。

マリファナを常習すると薬物依存症になりま

す。このような状態になるとマリファナが切れてくると、不安、抑うつ、攻撃的傾向、不眠、食欲不振、疲労感などの禁断症状がでます。以前と比べて、生活の行動パターンが著しく変化し、交通違反、破壊行為、万引きなどの反社会的な違法行為をおこすようになります。

4. 麻薬の本当の恐ろしさは？

麻薬の恐ろしさの根本は何なのでしょう？それは麻薬が人間の人格を破壊してしまうことです。私たち人間は喜怒哀楽の感情をもって、家族の一員として、学生仲間の一人として、また社会の一員として日常生活を送っています。例えば人の感情には、気のあう友人とおいしい食事をした後にくる“ほっとした静かな悦び”を感じます。水を飲むことができない状態で、やっと水が飲めた後にくる“ほっとする満足感”や、好みの音楽を聴くのも、好きな人との性交もしかり、自分の子供を育てることに悦びがあるのもこの脳回路が関与しています。この人間の持つ静かな悦びを“Natural Reward”といいます。さらにこれを感じする脳の回路をReward Pathwayといい、日本語では報酬経路(ごほうび経路)と訳されています。神が人間に与えてくれた“ご褒美”なのです。この経路は中脳の腹側被蓋野から側坐核を介して前頭前野につながる経路で、ドーパミン神経系であるといわれています。Reward経路が活性化するのは、必ずしも欲求が満たされた時だけではなく、報酬を得ることを期待して行動をしている時にも活性化します。(図3)

しかし、マリファナや危険ドラッグなどの薬物を乱用すると、このReward経路が正常に働かなくなります。すると普通の日常生活では悦びが得られなくなり、次々と薬物を求めて行動

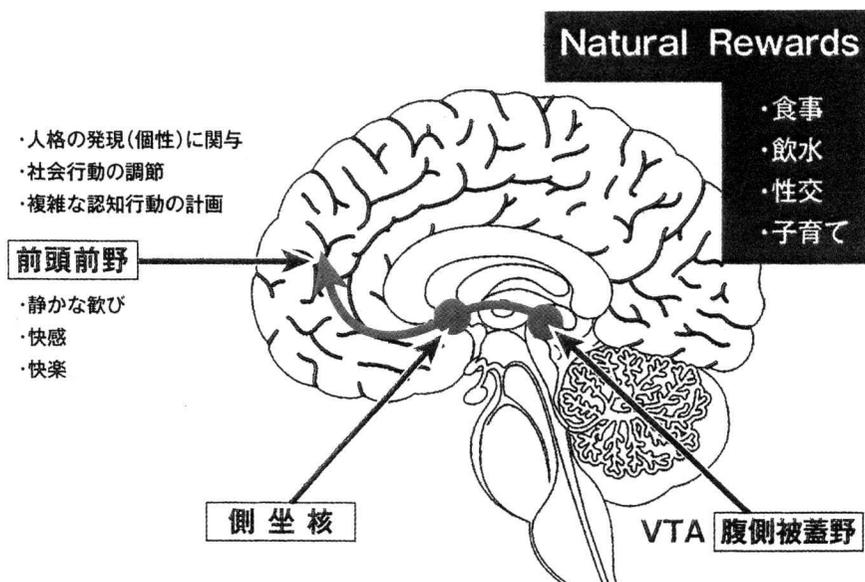


図3 Rewards Pathway (ごほうび回路)

し、薬物中毒を引き起こします。そのため、普段の生活では満足できなくなり、満たしてくれるものは麻薬でしかなくなってしまいます。そうすると中毒状態に陥り、学業はもとより、家族からも友人からも離れて、人間的な日常生活もできなくなりなり、麻薬を繰り返すだけになってしまいます。

5. 薬物乱用のきっかけと断る意志

薬物を始める動機に関するアンケートでは、第1にどんな気持ちなるのか試したかった(65%)、第2にいい気持ちになりたかった(19%)、第3に疲労回復のため(15%)、以下、自暴自棄になって、無理矢理に乱用した、などになっています。

日本では薬物を使用することはもちろん持っているだけでも罪になります。薬物の誘いの言葉は巧妙で、面白いクスリがあるよ、やせられるよ、肌がきれいになるよ、眠気がとれて、勉

強ができるよ、みんなやっているよ、ただの栄養剤だよ、1回だけなら平気だよ、などの甘い誘いがあります。

外国でも薬物は厳しく禁止になっていますが、南国のリゾート地では気持ちも開放的になっている旅行者に売りつけようと、誘いが来ることがあります。日本では drug は医薬品として薬局で買うことができますが、外国では drug は覚せい剤や麻薬を意味します。(医薬の薬は medicine になります) smoking もタバコではなく、マリファナを指すことがあります。

Do you have some drugs? (麻薬ありますか?)

Do you like smoking? (タバコは好き?ではなく、マリファナは?)

これらの誘いは要注意です。

このように薬物に手を出すきっかけは好奇心と気の緩みからです。“一回だけなら大丈夫”とマリファナを吸入すると、ただちに脳の麻薬受容体に結合してしまい、その結合は逆戻りし

ません。一旦薬を始めると脳が覚えてしまい、戻れなくなります。薬を勧められても、しっかりと断る意志と勇気を持ちましょう。

おわりに

我々は、現在の若者の薬物に関する認識を確認し、また薬物の脳に及ぼす影響・人格崩壊につながる怖さを知って、薬物防止の指導を行っていかなければなりません。学生の皆さんも甘い誘いはきっぱり断る強い意志を持って、楽しい大学生活を過ごして下さい。